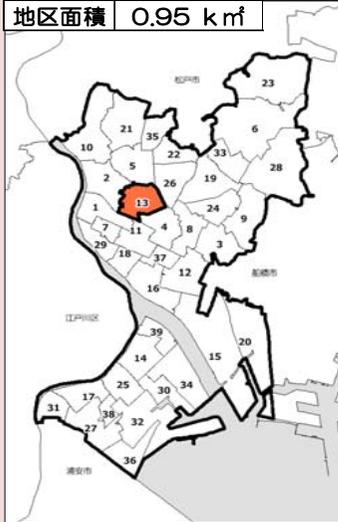


13 菅野小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

- ◆位置
菅野小学校区は市のやや北西部に位置し、地区内を真間川が横断しています。また、地区の東側は国分川に面し、真間川と国分川の分流地点があります。
- ◆地形・土地利用
地形は、氾濫平野で構成されています。地区の東側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅が建ち並んでいます。
- ◆都市基盤
中央には南北にかけて外環道路が通っています。また、地区の南側には京成本線が通っており、菅野駅があります。地区内には、JR市川駅とJR本八幡駅を往復する京成バスが通っています。

(3) 人口・建物概況

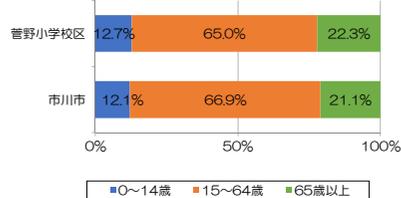
◆人口

年齢別割合	菅野小学校区	市川市	割合*
人口総数	10,683人	487,621人	2.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



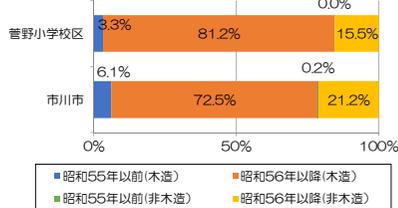
◆建物

構造別割合	菅野小学校区	市川市	割合*
建物総数	3,303棟	114,958棟	2.9%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



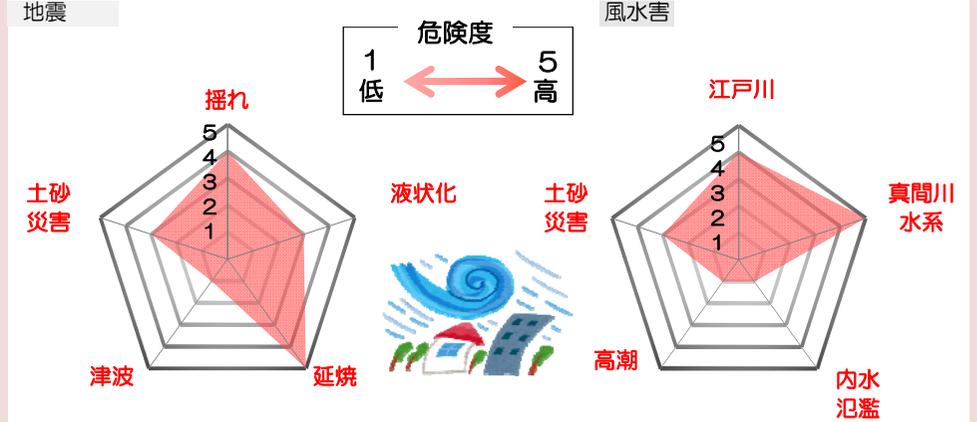
地区の人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

菅野小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れや延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、地区内に真間川が流れ、近くに江戸川も流れていることから、河川の氾濫による浸水の危険性が高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさが高い傾向にあるものの、緊急車両の通行可能や延焼のしにくさは比較的低い傾向にあります。また、地域の防災力については、総じて高い傾向を示していますが、特に防災活動力が高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
菅野小学校	-		
菅野公民館	-		
日出学園	-		

◆避難場所

名称
菅野小学校
菅野公民館
日出学園
国府台女子学院
六所神社

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	菅野保育園		医療介護所	東京歯科大学市川総合病院前
			関連施設	なし
			-	
			-	

要配慮者利用施設(民設)
12



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	菅野小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	3.2%	3.6%
	半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	15.7%	16.0%
	焼失棟数の割合	11.1%	4.6%
浸水棟数(津波)の割合	0.0%	0.8%	
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	1.2%	0.9%
	避難者の割合	7.1%	7.3%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	菅野小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数(江戸川)の割合	85.5%	52.0%
	浸水棟数(真間川)の割合	57.5%	13.6%
	浸水棟数(内水)の割合	0.0%	20.5%
	浸水棟数(高潮)の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物がやや多いこともあり、建物被害はやや多い傾向となっています。また、人的被害については、死者、負傷者はほぼ同程度ですが、避難者については、市全体よりやや多くなっています。一方で、風水害については、江戸川や真間川の氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数も多くなっています。

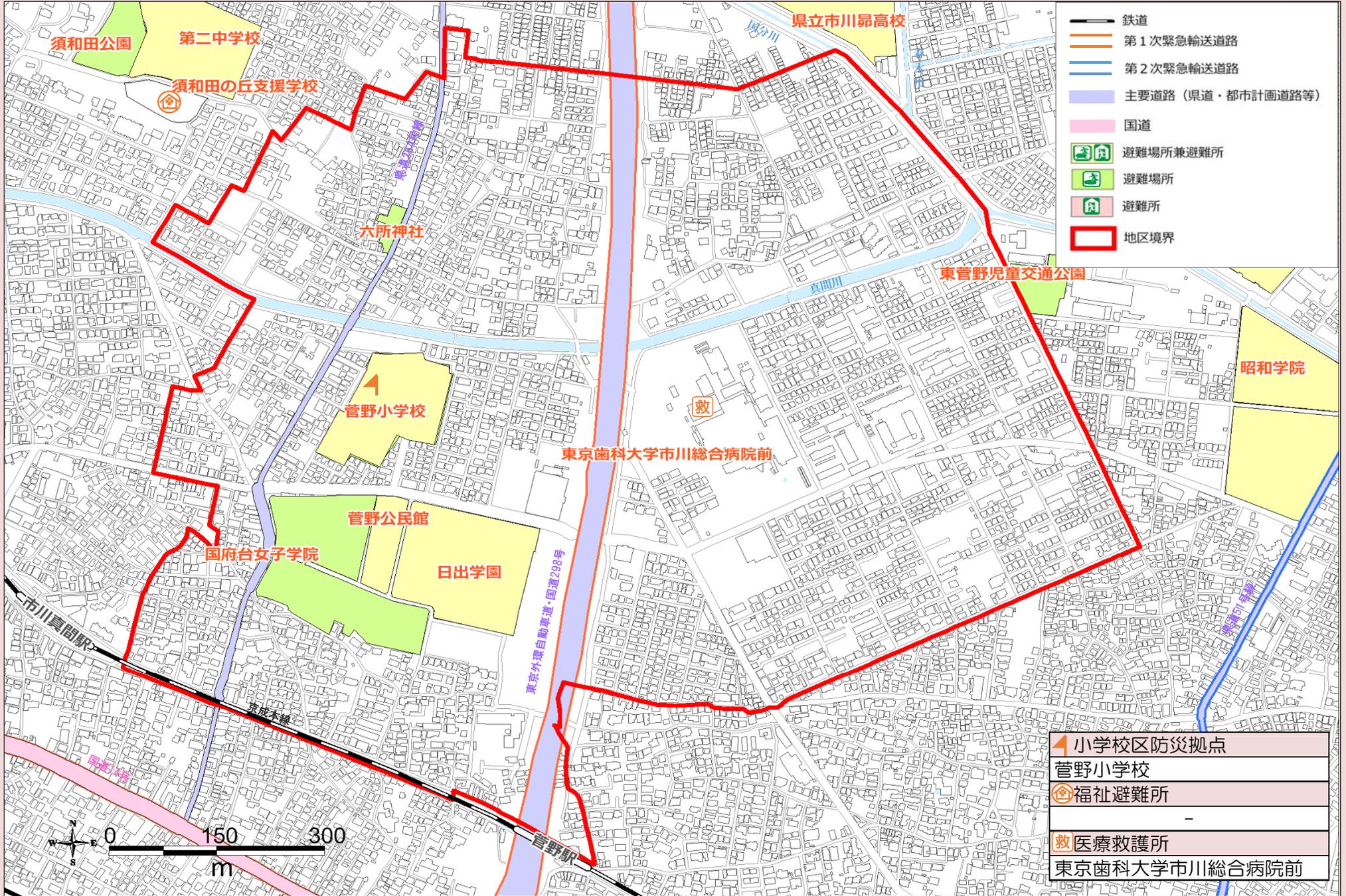
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れや延焼による危険性が高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策が重要です。
風水害	地区内には真間川が流れ、近くに江戸川が流れていることによる、浸水被害の恐れがあります。また、過去には道路冠水及び床上・床下浸水が発生しており、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では防災活動力が高い傾向を示していることから、防災活動力の強みを活かし、さらに防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

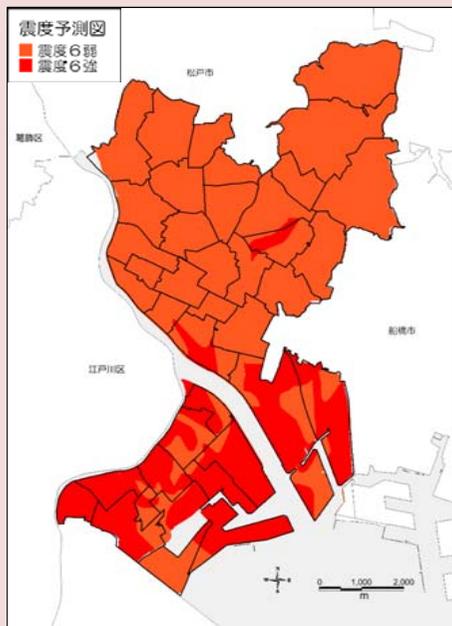
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、地域で初期対応の訓練を実施するなど対策が効果的です。 地区内にはがけ崩れ危険箇所があるため、あらかじめ地域間で危険箇所等について共有しておく必要があります。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震プレーカーの設置を行い、自宅(家庭)の防災力を向上させることが重要です。地区内には過去にも液状化による被害を受けていることから、あらかじめ減災マップ等で液状化危険度を確認しておく等の対策が必要です。また、延焼の危険が最も高いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが重要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 地区内にはがけ崩れ危険箇所があることから、まちあるきをする等、あらかじめ危険箇所を確認し、大雨時の土砂災害警戒情報の情報収集方法等を確認しておく必要があります。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
 震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

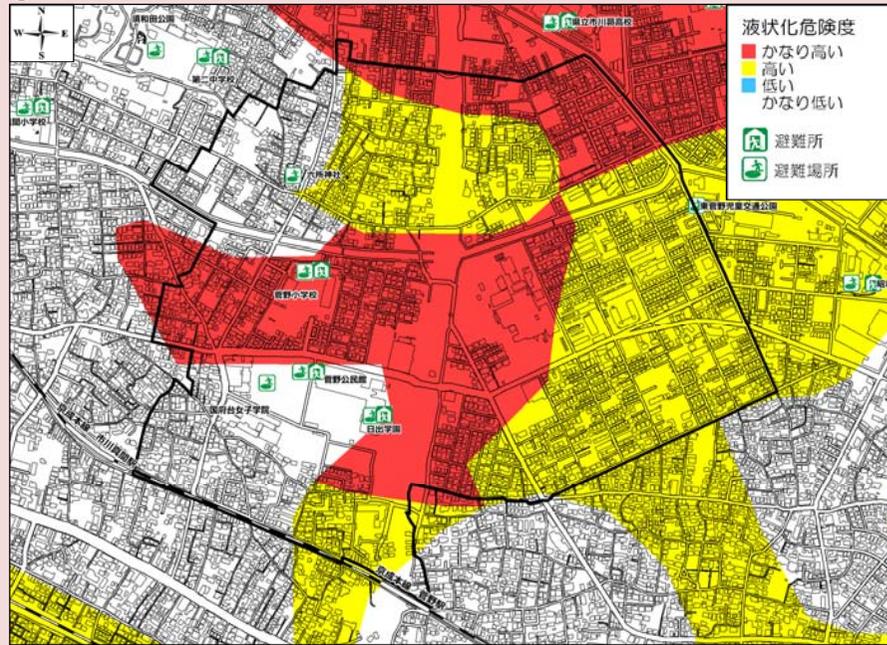
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

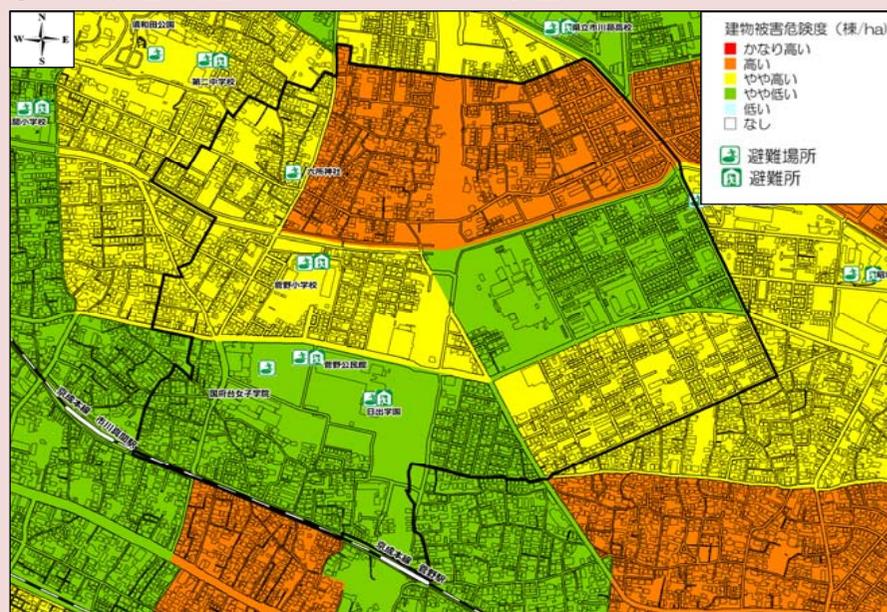


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

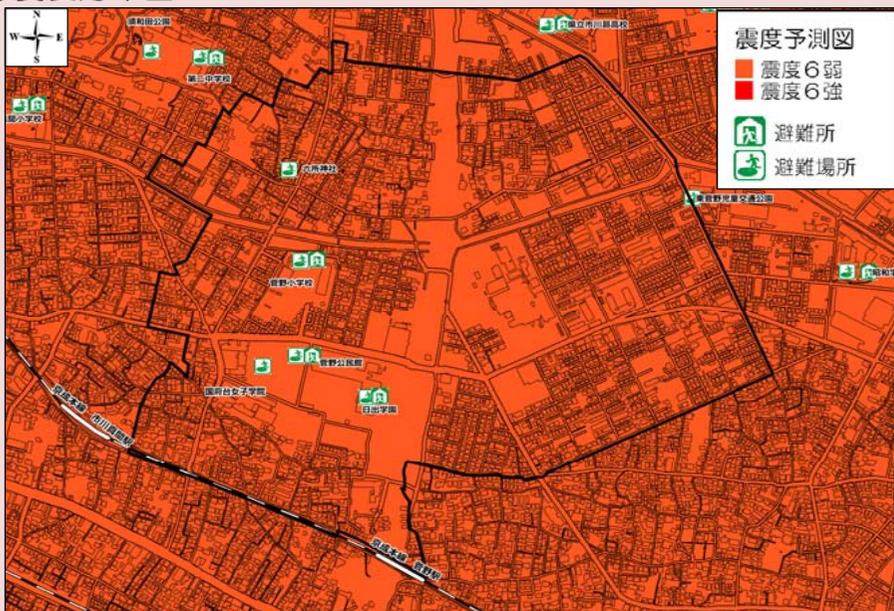
③液状化危険度



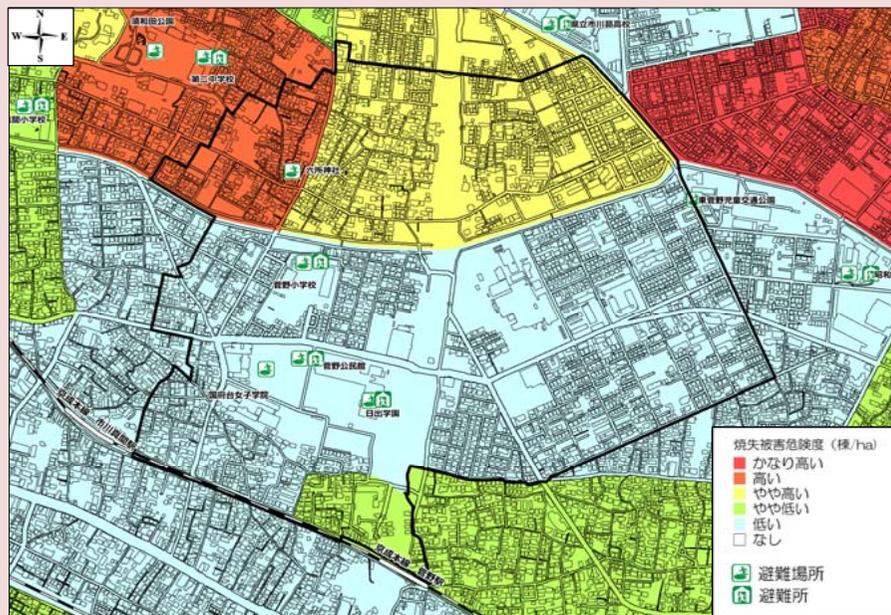
④建物被害（揺れ・液状化による被害）



②震度分布図



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

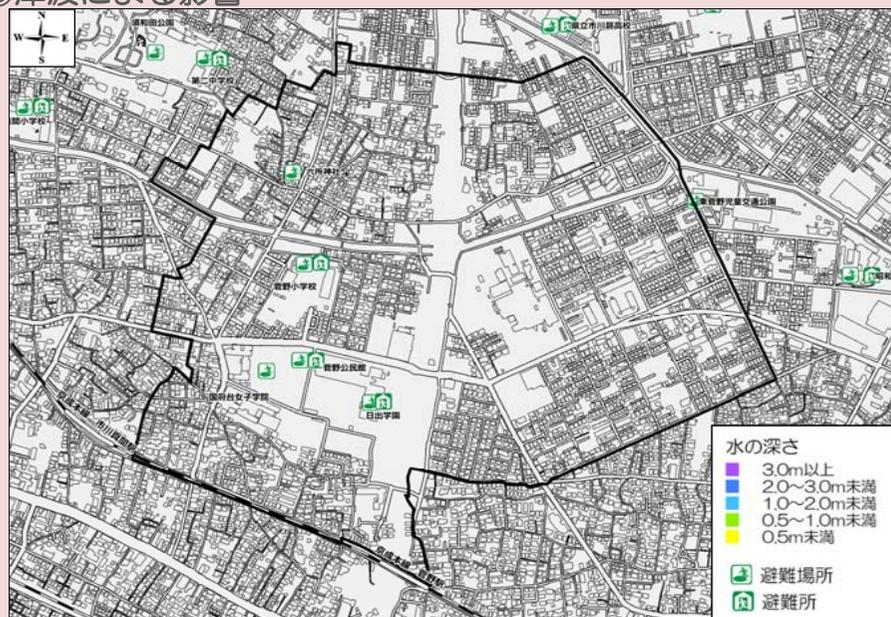
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0~3.0m未満
- 水の深さが1.0~2.0m未満
- 水の深さが0.5~1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

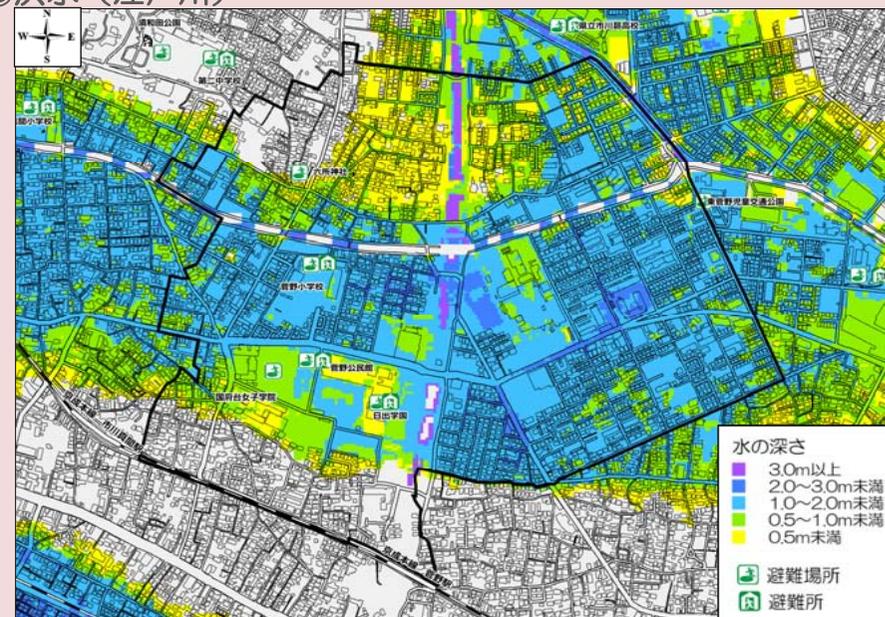
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

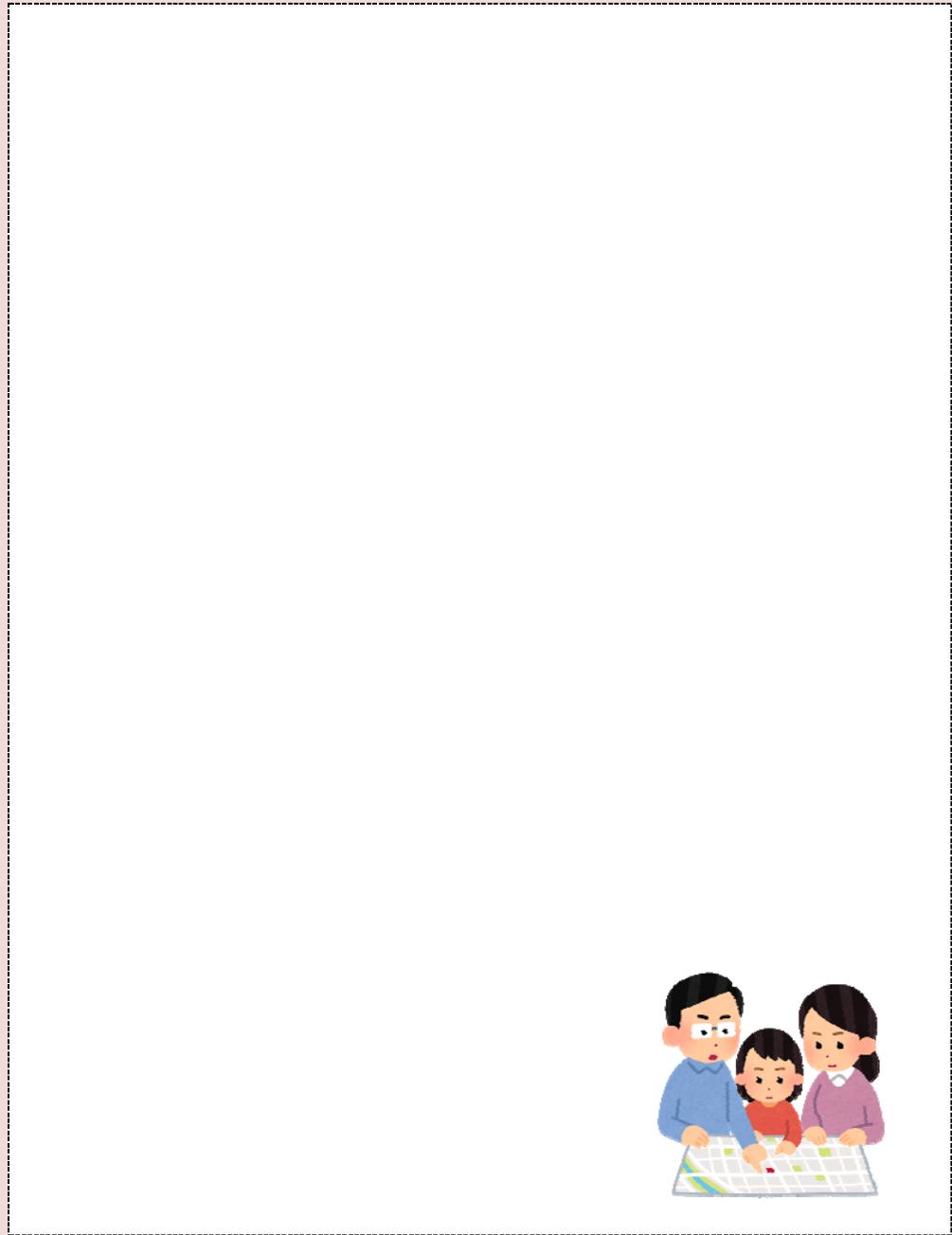
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）

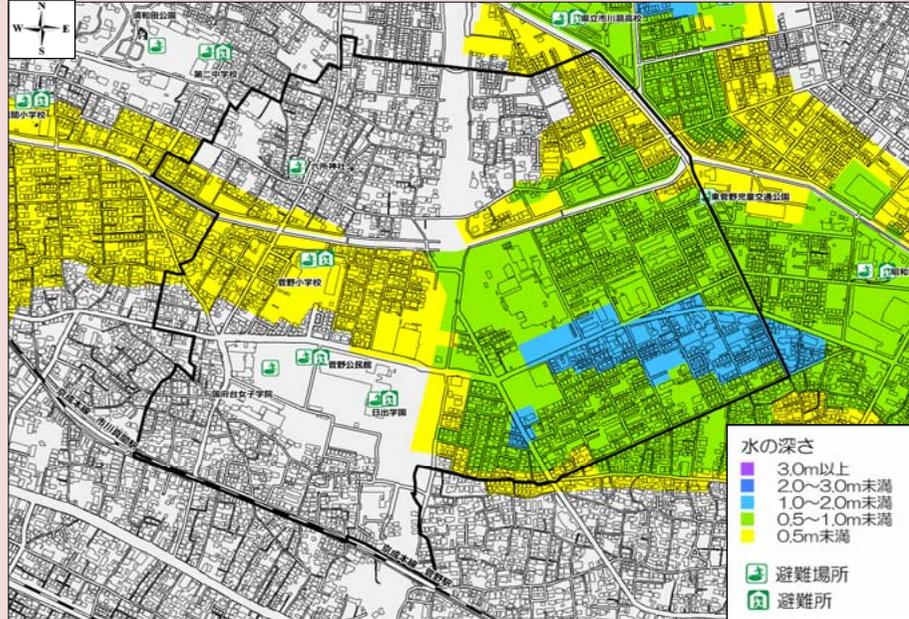


平成29年7月：国土交通省

◆メモ

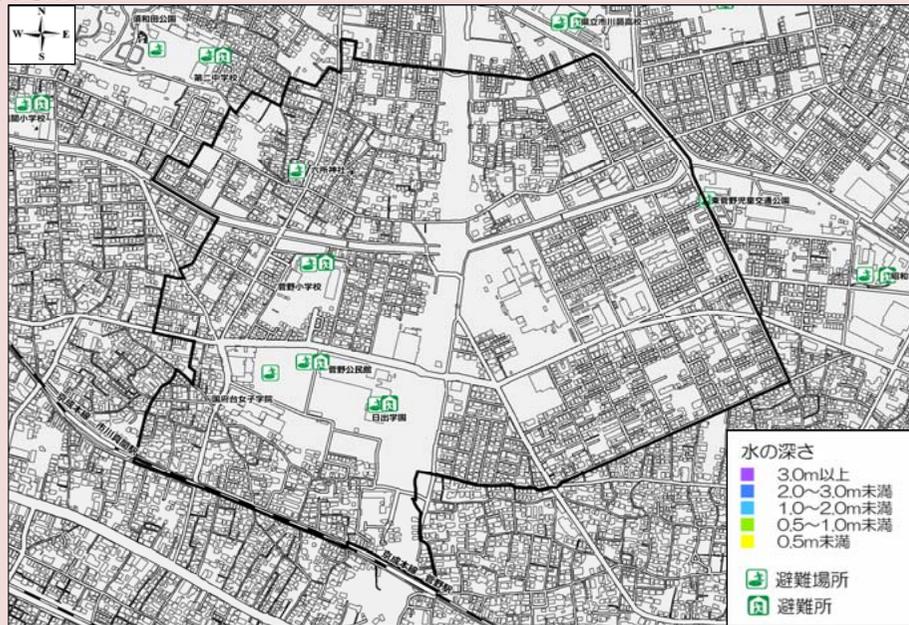


⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省